

2020年4月、日本全体の臨床研究力を向上させ、世界最高水準の研究開発・医療を目指すため、国内の6つのナショナルセンターが強力に連携する「医療研究連携推進本部(JH)」が設置されました。

各組織が持つ卓越した専門性、資源、そして情報をひとつに集約し、機能的な連携を推進する。そのJHが主導するプロジェクトのひとつが、「6NC-EHRs」です。

6NC-EHRsとは、日本の高度専門医療を高精度に反映した国内唯一のネットワーク型のRWD基盤です。



6NC-EHRs

Medical Big Data Jointly Created, Continuously Enriched, and Shared by the National Centers.



6NC-EHRsの特徴

1. 特定の疾病に関する高度な医療研究開発、医療提供、人材育成、情報発信を担う、国の研究開発機関の電子カルテ情報
＜参加施設＞
 - がん医療を担う国立がん研究センター
 - 脳卒中、心臓病などの循環器疾患を担う国立循環器病研究センター
 - 精神・神経疾患を担う国立精神・神経研究センター
 - 周産期医療及び小児医療を担う国立成育医療研究センター
 - 高齢者医療と長寿社会の構築を目指す国立長寿医療研究センター
 - パンデミックや災害など健康危機に対応する国立健康危機管理研究機構
2. 多様な専門領域の病院から疾患やライフステージを跨ぐ情報を集約することで、一人の一生にわたる健康状態や疾患の推移を疑似的に再現



利用対象者

- ・ ナショナルセンターと雇用関係にある職員のみが、JHが募集する助成研究課題において利用可能です。(各ご所属NCの担当者にご相談ください)
- ・ なお、今後は利用対象者の一般公募も開始予定です。



6NC-EHRsショーケース



6NC-EHRsの膨大なデータを活用し、どなたでも自由な切り口で集計・分析ができる統計データ公開サイトです。ノーコードでグラフを作成できます。

【6NC-EHRsショーケース】で検索！



ナショナルセンターが共同で創り、育て、共同で利用する医療ビッグデータ

6NC-EHRs

- 登録患者数100万人超※
- 総レコード数6.1億超※
- 2015年4月以降およそ10年間分を蓄積※

- 病名歴・入院・処方・検査結果など詳細な診療情報
- 収集した診療情報の約9割が標準化整備済※

収集診療情報	標準化コード
病名歴	ICD10・病名管理番号
処方オーダー	YJコード
注射実施	YJコード
検体検査結果	JLAC10・11

※2025年10月時点



よくあるご質問

- Q. どのようなデータが格納されていますか？
- A. 8つの基本情報(患者基本、検体検査、処方、注射、外来受付、入院退院、病名)が格納されています。
- Q. 外部データや電子カルテとの名寄せはできますか？
- A. できません。患者IDは匿名化されており、バイオバンク等の外部データや、各NC内の電子カルテデータとの名寄せ(紐付け)には対応していません。
- Q. データ提供数に制限はありますか？
- A. 原則として「全患者数の5%」が上限です。
- Q. 抽出可能なデータの期間はありますか？
- A. 2015年4月以降です。なお、NCごとに提供可能期間が異なる場合があります。各施設の提供可能期間はショーケースをご覧ください。

詳しくはFAQをご確認ください

<https://www.japanhealth.jp/project/6nc-ehrs/faq-data.html>



6NC-EHRs活用研究成果

- ・ JIHS国府台 狩野班: 6NC-EHRsデータを用いてプロトンポンプ阻害薬が腎機能に与える影響を評価する過去起点コホート研究(第68回日本腎臓学会総会)
 - ・ NCNP土肥班: 難病・希少疾患の6NC-EHRsを用いた診療実態調査(第12回日本難病医療ネットワーク学会学術集会)
 - ・ NCGG南班: 6NC統合電子カルテデータベース(6NC-EHRs)を用いた睡眠薬と併用薬との関係-認知症と認知症薬に焦点をあてて-(第39回日本老年精神医学会)
- JHホームページにて随時更新中 ●

お問い合わせ先

6NC-EHRs事務局

✉ 6nc-ehrs@japanhealth.jp
ナショナルセンター医療研究連携推進本部(JH)
<https://www.japanhealth.jp/index.html>
〒162-8655
東京都新宿区戸山1-21-1
☎03-5273-6856

